

## TOTO

壁掛大便器取付スタンド  
UTR860S

## 安全のために必ずお守りください

取付けの前にこの「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく取付けてください。この説明書では、機器を安全に正しく取付けていただき、お使いになる人や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表示	意味
 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

◆お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し説明しています。

表示	意味
	この絵表示は、してはいけない「禁止」内容を伝えるものです。

## 1. 設計上のご注意

床コンクリート仕様	圧縮強度20.6MPa以上
	鉄筋のかぶり厚50mm以上
	養生期間28日以上（アンカーボルト施工時）
配管スペースの奥行寸法	有効寸法250mm以上（仕上げ厚含む）
壁仕上げ厚	17~30mm（下地の耐水合板12mmを含む）
床仕上げ厚（注1）	60mm以内（標準便器高さの場合）

便器高さはSL+360~440の範囲で取付けることができます。

（注1）便器高さを標準より高く取付ける場合は、高くする分と床仕上げ厚を合わせて60mm以内としてください。

（例：便器高さFL+420mmに取り付ける場合  
便器高さ420mm－標準便器高さ380mm＝40mm  
60mm－40mm＝20mm→床仕上げ厚20mm以内）

## 警告

- 所定の仕様を満たさない床コンクリートには施工しない  
スタンドの転倒や便器の落下による、ケガや壁材の破損の原因となります。  
※ 本取付スタンドは、床への固定のみで壁掛大便器等の荷重を支えます。
- 指定以外の便器と組み合わせて施工しない  
便器の破損、落下による、ケガの原因となります。

※壁掛大便器取付スタンドは、専用壁掛大便器セットとセットで使用します。

## 2. 商品概要

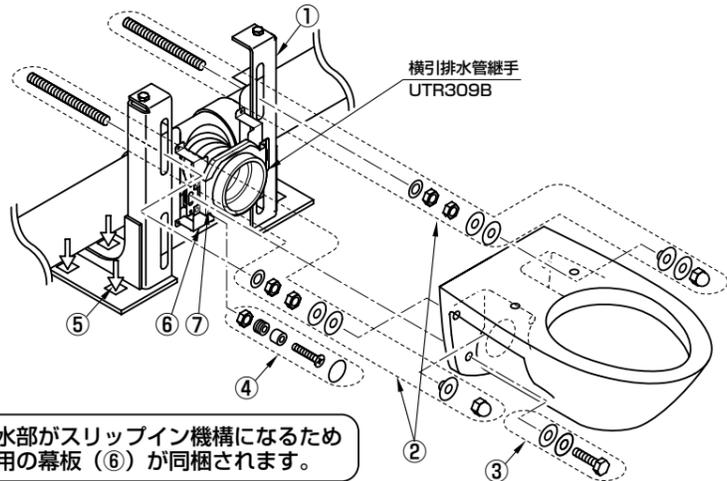
## 【壁掛大便器取付スタンド】UTR860S

品名	詳細
①スタンド本体	※あらかじめ仮組みしてあります。
②便器取付ボルトセット	便器取付ボルト…2本、六角ナット…4個、平座金…2個 平ゴムパッキン…2個、異形ゴムパッキン…2個 化粧座金…4個、化粧ナット…2個
③大便器取付金具	化粧ボルト…2本、平ゴムパッキン…2個、化粧座金…2個 座金…15個、受け材…1個、皿小ねじ…1本 受け材化粧カバー…1枚、六角ナット…1個
④下部受け材セット	アンカーボルトM12…6本、床固定座金…6枚
⑤アンカーボルトセット	アンカーボルトM12…6本、床固定座金…6枚
⑥幕板	バインドタッピンM4×8…8本（同梱部品）
⑦ソケット押え板	バインドタッピンM4×8…8本（同梱部品）

【対応単独排水継手】 ……UTR310

【対応横引排水管継手】 ……UTR309A・UTR309B

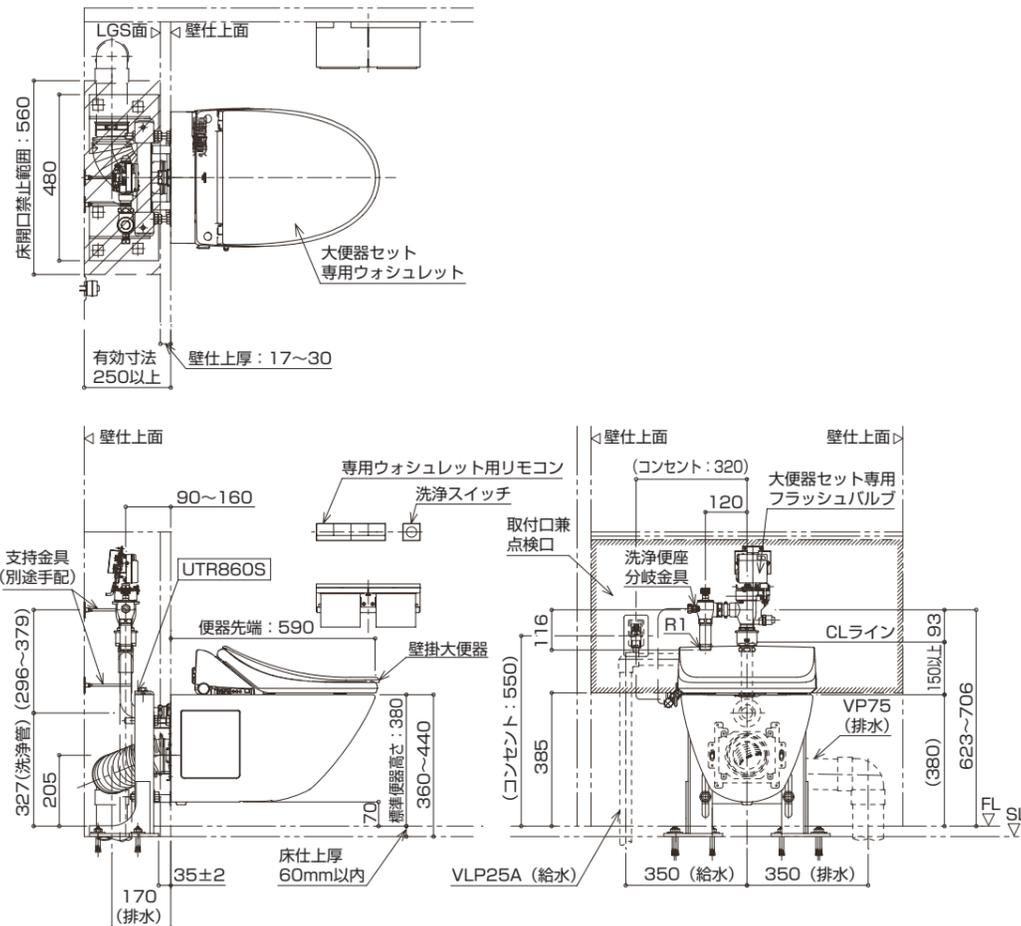
UTR309A・UTR309Bは排水管を床上で横引きする際にご使用いただける横引排水管継手です。UTR309A(左抜き用)、UTR309B(右抜き用)と品揃えしておりますので選定の上お使い下さい。



排水部がスリップイン機構になるため専用の幕板(⑥)が同梱されます。

※図の横引排水管継手は右抜き用を示します。

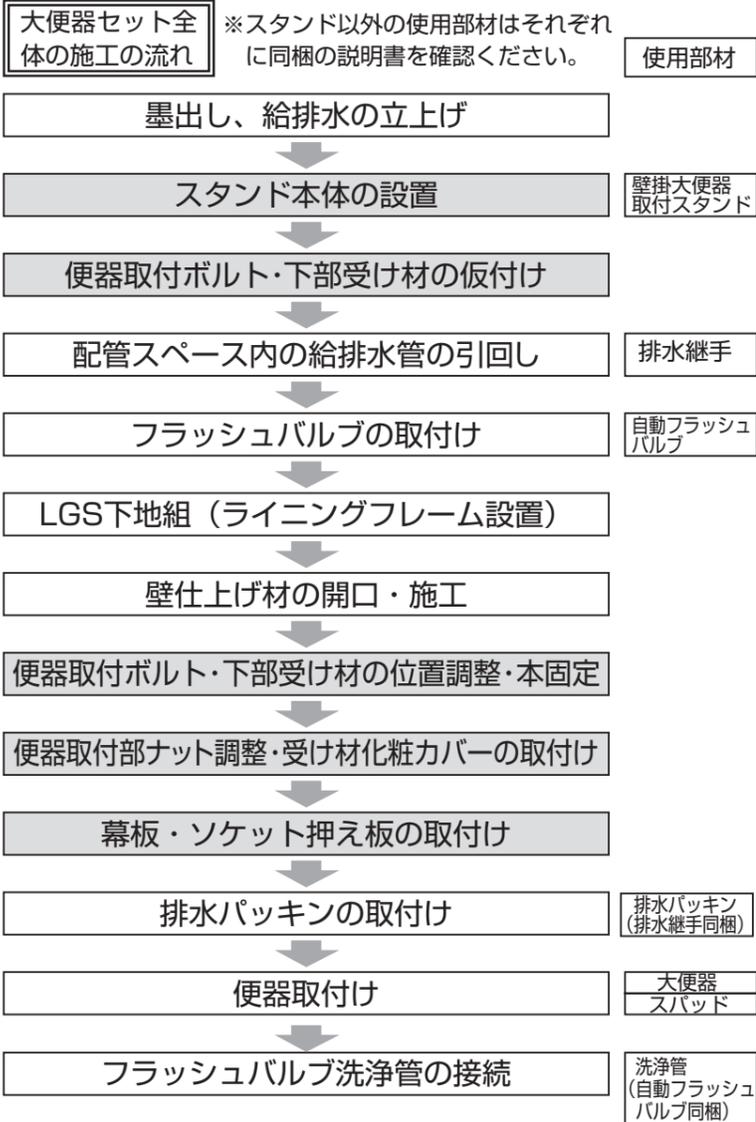
## 完成図



### 3. 施工手順

納まりや施工手順を事前に十分検討し、各工程における他工事との連絡調整を行ってください。

■…壁掛大便器取付スタンド設置工事

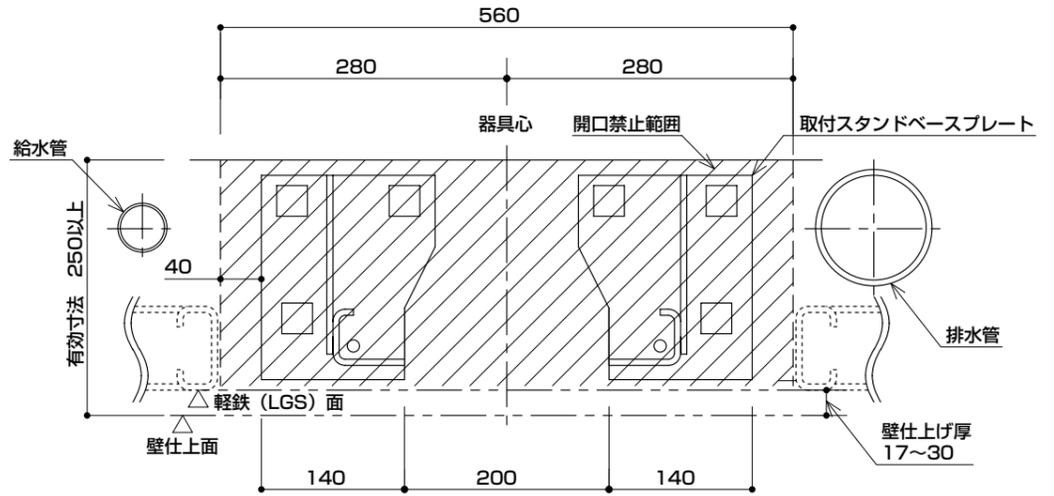


### 4. 給排水の立上げ

- 給排水管は、床開口禁止範囲（スタンドのベースプレートの周囲40mmの範囲）と軽鉄（ライニングフレーム）を避けた位置から配管を取り出してください。
- 排水管継手の設置条件については、「6.給排水管引回し」をご参照ください。

#### 警告

- スタンドのベースプレートの周囲40mmの範囲に床コンクリートの開口や欠損があると、アンカーボルトの必要強度が得られないため、スタンドの転倒や便器の落下の恐れがあります。



### 5. スタンド本体の設置とアンカーボルトの固定 ①

- ①スタンド本体は、あらかじめ仮組みされていますので、床に出した墨に合わせてスタンド本体を仮置きし、アンカーボルトの位置をマーキングします。（右図を参考にしてください。）  
※軽鉄（LGS）が先に施工されている場合は、軽鉄ランナーとスタンドが干渉する部分を切り取ってください。

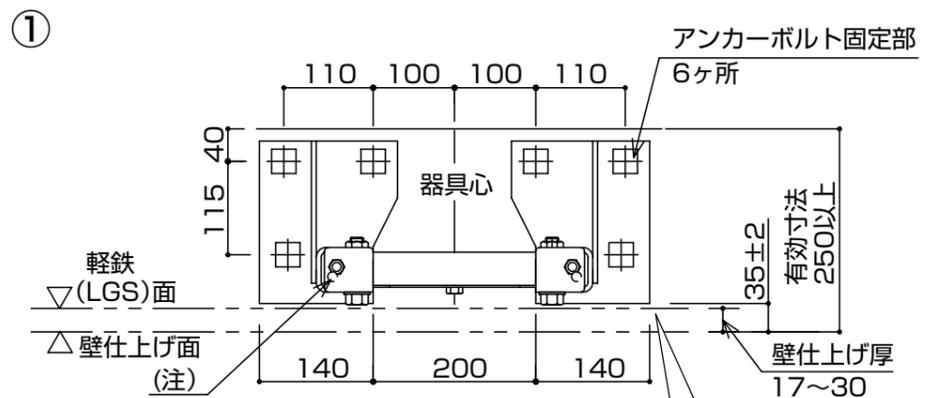
- ②下穴を開けます。  
ドリル径：φ12.5 下穴深さ：50mm以上

#### 警告

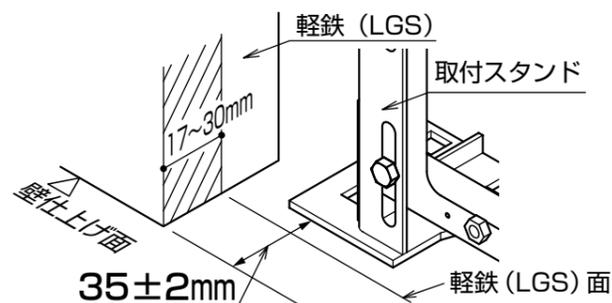


- 指定以外の径のドリルを用いたり、下穴深さが不足の状態では施工しない  
強度不足による、スタンドの転倒や落下の原因となります。

- ③下穴の中の切粉をブロアー等で完全に除去します。
- ④スタンド枠材固定ボルトを緩めて左右の柱材が垂直になるように下穴で合わせスタンド本体を置きます。
- ⑤床固定座金を固定部に置き、ナットの位置を調節し、アンカーボルト（M12）を挿入します。
- ⑥心棒をハンマーで確実に打ち込みナットの増し締めをします。
- ⑦高さ調整ボルトを用いてスタンド枠材の高さを調整します。  
※スタンド枠材が水平になっていることを確認してください。



※設計上壁仕上げ面より35mm引込めてください



（注）φ10穴-2ヶ所は製造上必要な穴で施工には使用いたしません。

手順②より次ページに続く

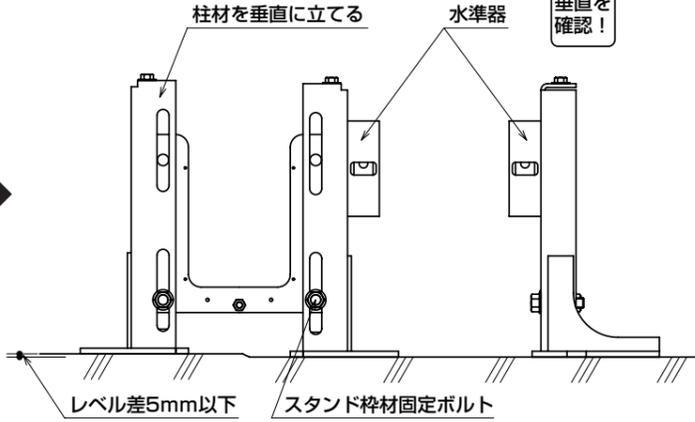
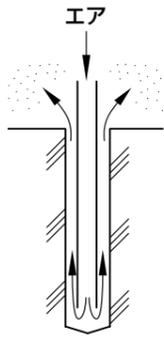
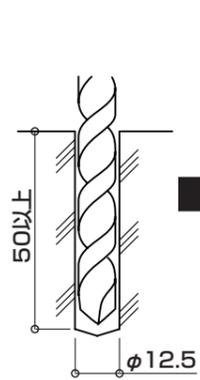
## 5. スタンド本体の設置とアンカーボルトの固定②

②下穴を開けます。

③切粉を除去します。

④スタンド本体を設置します。

●左右の柱材のレベル差は5mm以下としてください。



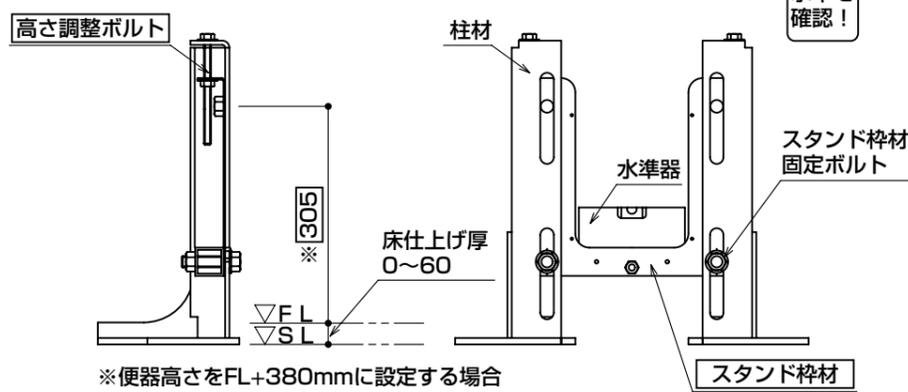
### 警告

●アンカーボルトの部分のベースプレートが浮いた状態で固定すると、アンカーボルトの必要強度が得られません。ベースプレート接地面に不陸がある場合は、床コンクリートをはつてならずか、スペーサー（現場手配）を用いて調節してください。

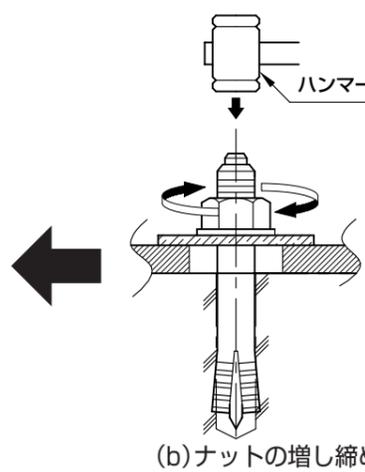


⑦スタンド柱材の高さ調整をします。

スタンド柱固定ボルトを緩めます。便器取付ボルト固定用のナット心が床仕上げ面から305mm（※）になるように調整してください。

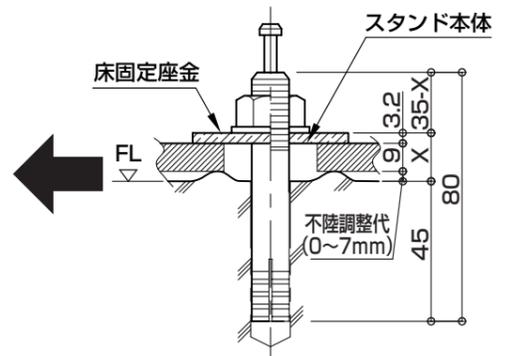


⑥ (a)ハンマーで確実に打ち込む



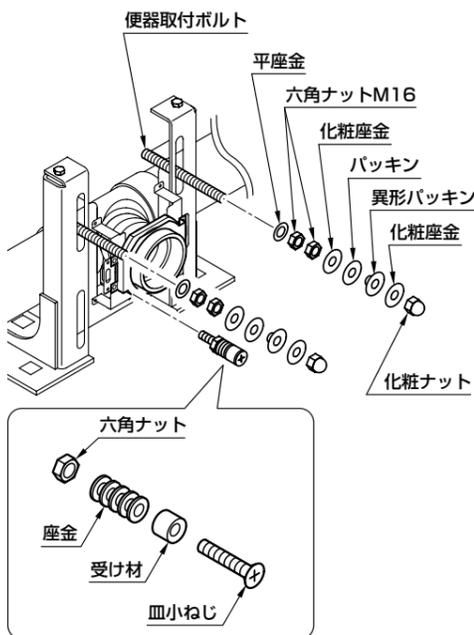
⑤ナットの位置調整をします。

ボルトねじ部上面から(35-X)mm  
※X=スタンド(t9)+床固定座金(t3.2)+(不陸がある時は7mm以内)



## 6. 便器取付ボルト・下部受け材の仮付け

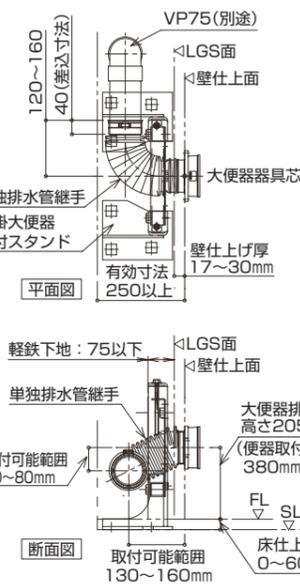
便器取付ボルト・下部受け材を仮付けします。  
前出寸法は、施工工程9.を参照の上、大体の目安を付けて調整しておきます。



## 7. 給排水管の引回し、軽鉄下地組(ライニングフレーム設置)、フラッシュバルブ取付け

- ①配管スペース内の給排水管の引回し  
商品図に基づいて所定の位置に給排水管の末端を引回してください。
- ・給排水管は別途手配してください。
  - ・給水管の末端部にフラッシュバルブを仮固定しておきます。フラッシュバルブの取付け詳細については、フラッシュバルブ同梱の施工説明書を参照願います。
  - ・排水管末端部には必ず専用の排水継手 (UTR309A、309B、310) をご使用ください。
  - ・横引排水管継手は、軽鉄 (LGS) 下地がW-75以下の場合に使用できます。

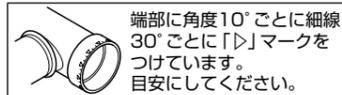
### 床抜き配管の場合



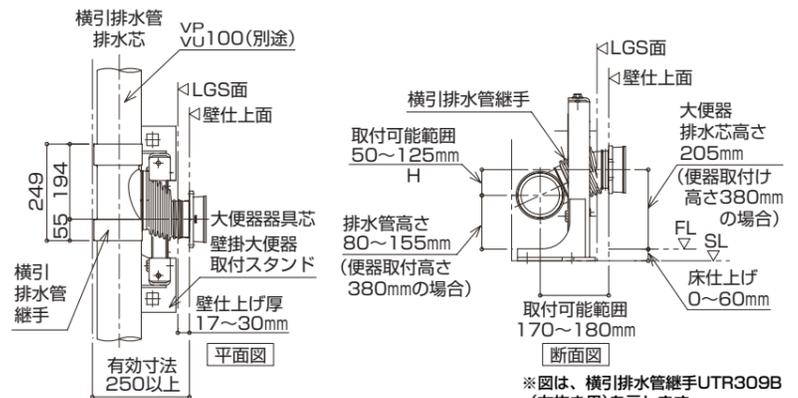
### 横引排水管継手を使用する場合

※ジャバラ部を無理に曲げないように下図及び下表を目安に、角度を確認して取付けてください。

H (mm)	50~55	55~65	65~75	75~80	80~85	85~95	95~105	105~110	110~120	120~125
θ(角度)	15°	20°	25°	30°	35°	40°	45°	50°	55°	60°



●横引配管と継手用の接着には塩化ビニル管用接着剤をご使用ください。



※図は、横引排水管継手UTR309B (右抜き用)を示します。

ここで一旦設備工事が終わり、その後建築工事でライニングを組み立てます。

②軽鉄下地組(ライニングフレーム設置)  
配管スペースの軽鉄(LGS)下地を組み立てます。(ライニングフレームを設置します)

スタンド(W=480mm)の周囲は適切な開口補強を行ってください。

## 8. 壁仕上げ材の開口・施工

軽鉄下地（ライニングフレーム）に壁材を貼り付けます。



**注意**

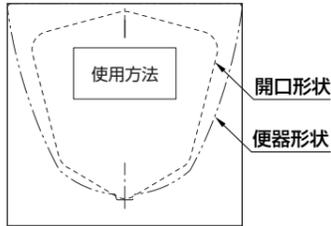
- 壁材にはライニングフレーム内に納まるフラッシュバルブやコンセントをメンテナンスできるように、必ず必要サイズの点検口を設けてください。  
詳細は商品図面を参照ください。

- ・大便器設置部の壁材の所定位置に付属の型紙を貼り付け、開口を行います。
- ・使用方法の詳細は、同梱の型紙を参照ください。
- ※下地張り、穴あけ等、工事範囲や手順を事前に打ち合わせ調整してください。



**注意**

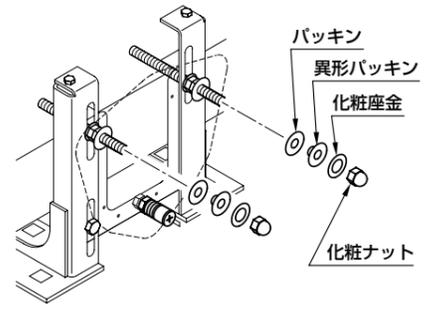
- 付属の型紙を必ず使用してください。
- 穴あけは型紙の指示通りの位置・大きさを必ず開けてください。穴が小さすぎると壁材が破損するおそれがあり取付ができません。穴が大きすぎると取付時に便器形状から穴がはみ出してしまう。



- ・開口形状をミシン目で切り離して外周に沿ってけがいてください。

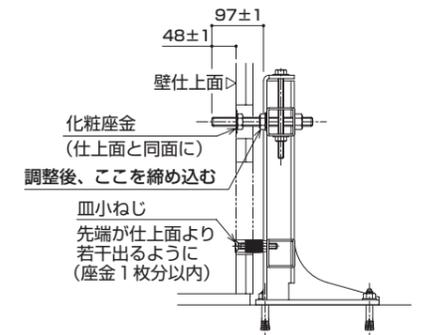
## 9. 便器取付ボルト等の調整・本固定

- ①右図のパッキン・異形パッキン・化粧座金・化粧ナットを一旦取り外します。（その他は取り外しません）



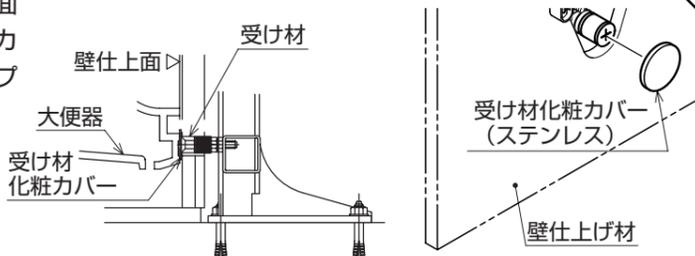
- ②便器取付ボルト・及び下部受け材の出寸法を右図にしたがって調整し、本固定します。

- ※下部受け材の出しろを調整する際は、一旦下部受け材を取り外し、六角ナットを取外して座金の枚数を加減し、再び六角ナットを座金との隙間がないように取り付け、本体にセットしてください。
- ※下部受け材は、皿小ねじをしっかりと締め込んで出しろを確認してください。



## 10. 受け材化粧カバーの取付け

下部受け材の表面に、受け材化粧カバーを両面テープで貼り付けます。



**注意**

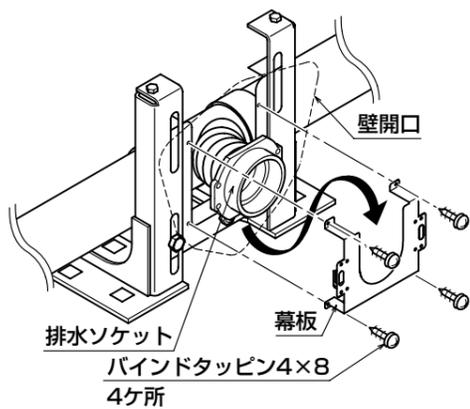
- 受け材が壁仕上げ面より引っ込んでいると壁材に荷重がかかり、壁材が破損するおそれがあります。

- ③①で外したパッキン・異形パッキン・化粧座金・化粧ナットを再び仮付けします。

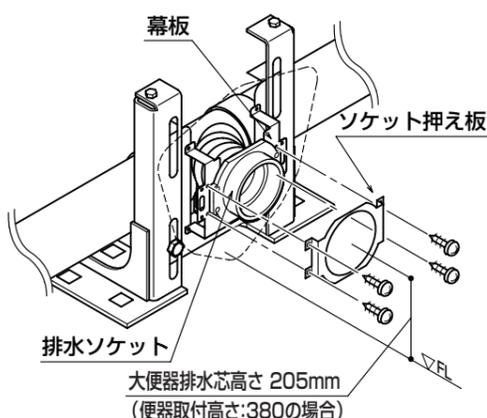
- ※大便器をすぐ取付ける場合は、取外したままで可。

## 11. 幕板・ソケット押え板の取付

- ①仕上材開口部より排水ソケット部を手前に引出し、幕板のスリット部に排水ソケットを上から勘合させて、付属のタッピンねじ（4×8 4ケ）によりスタンドに固定してください。



- ②ソケット押え板を排水ソケットに被せて、タッピンねじ（4×8 4ケ）により幕板に固定します。



## 12. 便器の取付け、洗浄管の接続

- ①便器背面給水口に便器同梱のスパッドを取付けます。
- ②便器排水口外周のごみや水分などを除き、向きを確認し排水口に排水パッキンを装着します。



**必ず実行**

- ・排水パッキン表面に必ず水または石けん水をつけてから差し込む。
- ・グリスは使用しない
- 劣化して漏水のおそれがあります。

- ③便器を静かに便器取付ボルトへ差し込み、異形ゴムパッキン、化粧座金、化粧ナットの順で仮止めします。

- ④大便器取付金具の化粧ボルトに化粧座金と平パッキンを通し、便器の下部固定穴に挿入、幕板両サイドのナットに勘合させて固定します。

- ⑤化粧ナットを交互にパッキンに弾力が残る程度まで締付け本固定します。  
便器の先端を押し、壁と便器に隙間が出ないようになるのが目安です。

- ※パッキンの擦れる音が発生したら、化粧ナットを締め過ぎです。化粧ナットを若干緩めてください。

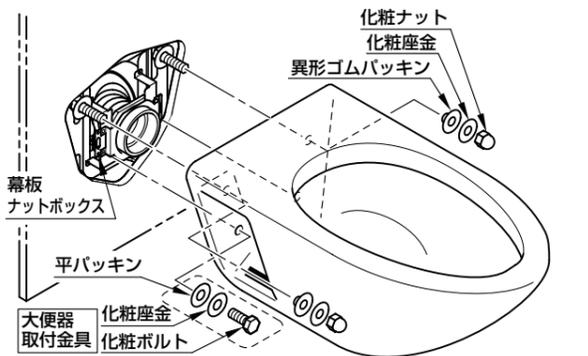
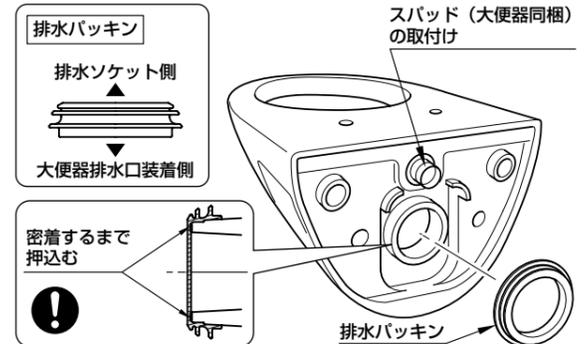
- ⑥下部化粧ボルトを交互にパッキンに弾力が残る程度まで締付け本固定します。

- ※適切締付トルクを出すために、

化粧ナット…中モンキー  
化粧ボルト…小モンキー } の使用をおすすめします。

便器下端を必ず下部受け材に接触させ、便器にかかる荷重を2本の便器取付ボルトと下部受け材の3点で支持するようにしてください。

- ⑦フラッシュバルブと大便器のスパッド間の洗浄管を接続します。詳細はフラッシュバルブ同梱の施工説明書をご参照ください。



排水ソケット部納まり (横引排水管継手使用の場合)

